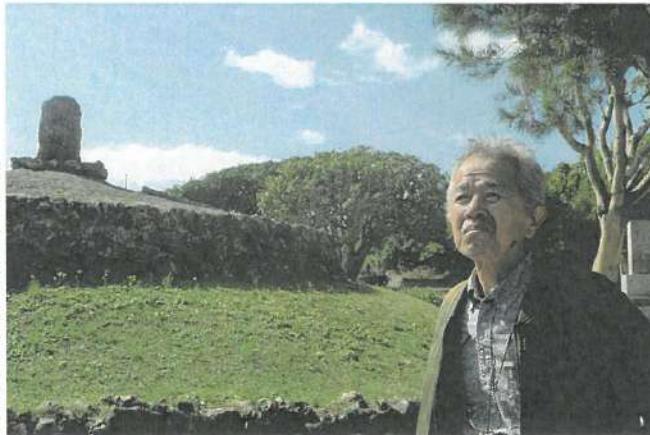


沖縄 交差するまなざし

【「和平の塔」（左）の前に戦没者の遺骨について語る
具志堅隆松さん】 沖縄県那覇市で、郷野京子さん撮影

米軍の新基地建設を使いつぶす計画が進む。同時に並行して、沖縄を最終目標とする「島嶼占領」への備えも勢いを増す。いつつた流れを見据えて、音楽を鳴らす機会が増えた具志堅さん曰く、戦争で命

奪われる人という意味だ。物言わぬ骨の死に至った結果を解き明かすら、自らは体験していない。沖縄戦を実感できぬか? などと。遺骨は78年後のいまも沖縄本島南部を中心とする約5000体近くが埋もれています。

戦没者の血がしみ込んだ土を、那覇の塔で見守る。そこには敗走してきた日本の住民、そこに敗走してきた住民と道走する米軍が入り乱れた。住民は戦闘の最前線に立たされ、逃げ惑い、命を失った。戦後、塔の周辺の地に難民先の収容所から移動させられた。和志村（那覇市）の住民が遺骨を収集組を組織。石を積み上げて納骨堂を完成させた。魂を慰める意味を込めて、「魂殿」と命名した碑も建立した。ほとんどが島外不明の遺骨は現在、沖縄市立文の國立沖縄戦没者墓苑に納められた。

市立文の國立沖縄戦没者墓苑は、那覇市で建立した。ほとんどが島外不明の遺骨は現在、沖縄市立文の國立沖縄戦没者墓苑に納められた。魂を慰める意味を込めて、「魂殿」と命名した碑も建立した。ほとんどが島外不明の遺骨は現在、沖縄市立文の國立沖縄戦没者墓苑に納められた。

「ガマフヤー」代表 具志堅隆松さん

田

を断ら切られた人々の「声」と

【目次】

時空を超えて背負う。

1月4日、沖縄県那覇市の慰

霊塔「魂殿の塔」の前で「戦没

者遺骨の収集をする集会」が開

かれた。沖縄戦体験者や遺族、

平和ガイドの人たち約150人

が参加し、具志堅さんもマイク

を握った。今度は私たちが戦

没者になるかも知れない。沖

縄戦を実感できぬか?

などと。松の内も明けない新

年早く切迫感と緊迫感が漂つ

る。遺骨を抱えるようにしてうずくまつ

ていた。そばに県立中学校のボタ

ンがあった。

沖縄戦では、中等教育の学校

は各校別に編成された音楽部助

員として戦場に出た。男子の

場合、微兵時に満たない14歳

遺骨の視線と声感じて

詩人、芝原京子さんの「島のカチャーシー」に共感して歌

家、比嘉かづささん作詞した曲を提供

と、少年とみられる遺体がひびきを抱えるようにしてうずくまつていた。そばに県立中学校のボタンがあった。

沖縄戦では、中等教育の学校で学生が車に勤務された。男子は各校別に編成された音楽部助員として戦場に出た。男子の場合は、微兵時に満たない14歳の年少者まで通信隊に送られ

た。

遺骨の状況から、具志堅さんは推測する。少年は戦場に送られた学徒であり、60年代の沖縄は米軍基地から爆撃機が飛び立つたペトナム戦争の最前線だった。戦争は、身近な現実だった。

遺骨収集を始めたのは、沖縄戦の遺骨が自然癪などによって骨が散らばしにされていて、それを拾った情報に基づいた風説

が日本本土で広がったこともあ

った。これを「戦没者遺

骨が散らばしにされている」と

いふ感覚があつた。

それでも、「戦没者の者」をつ

けた人々が、その塔の近くの原野で、琉球石灰岩の採掘計画がある。山野に逃げ込んだ人々の骨が化した遺骨や、血肉がしみ込んだ可能

性のある土砂が「辺野古新基地」の埋め立て工事に使われることで事態は進む。

具志堅さんが口にした「再び

戦場にしてはならない」という言葉には、沖縄戦の経験が込められている。

「遺体は完全に白骨化してお

らず、頭髪はほとんどそのまま

残り、なまには皮膚の残った遺

骨もある。また大人の遺体に

側に、小さな遺体が二、三体重

なり合った母子と思われる痛々

しいものもあった」（沖縄市史編纂委員会編『沖縄市史』）

生き残った人々は一時、こうした亡きがらご生活を共にした。

沖縄戦連合会記念館蔵

『終戦五十年記念いそ』

は、こう書き記す。

「手に伏せた兵士が、巻き

脚絆を書いた姿でミラーハード

いのりに出会いことは日本歴史

で、人々はそこに動かぬ」住

居のテント小屋の裏に、うつ伏

せに倒れたままこと切れだと思

われる遺体があつても、人々は

そこで生活する他はなかった」

へ「明日はうちの『もの』を

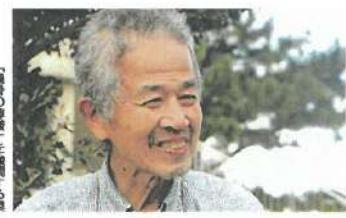
持って行つてもねう」と語る

らしき人に、自分の住むテン

ト小屋の裏にある遺体のことで

相談する姿を見られ、遺体や遺

骨の支配する世界に、生身の、

【「魂殿」を構築する際の「魂殿の塔」（左）の前に戦没者の遺骨について語る
具志堅隆松さん】 沖縄県那覇市で、郷野京子さん撮影

詩人、芝原京子さんの「島のカチャーシー」に共感して歌

家、比嘉かづささん作詞した曲を提供

落葉をまぬがれた奥まで進む

3体の日本兵の遺骨があった。

藤原健

〔次回は5月24日掲載〕